

令和7年度 市長のタウンミーティング

テーマ 地域公共交通 ～「のるーと射水」にみんなで乗るーと！～

日時 6月27日（金）午後7時～8時30分

会場 大島コミュニティセンター

出席者 市長、企画管理部長、市民生活部長、企画管理部次長、市民生活部次長、生活安全課長、生活安全課班長、未来創造課長（司会）

参加者 53名（ほかメディア2）

質疑応答

【発言者1】

アイタウン射水周辺の交差点に信号機を設置してほしいという要望が、県警にも申請されているのか教えていただきたい。

回答【市長】

ご指摘の箇所は、北部線（市道大島北野鷲塚線）や国道472号からアイタウン射水にアクセスするところと認識している。令和元年から4年頃にかけて、アイタウン射水の開業前に地域からの要望に基づき、警察が信号機設置の検討を行った。しかし、その時点では開業後の交通量を見て設置の可否を判断するとのことだった。

その後、今年5月にホテルルートイン射水がオープンしたことを踏まえ、改めて信号機設置について警察に確認したが、現時点での設置は必要ないとの認識であった。ただ、アイタウン射水は、企業や店舗の立地の余地がまだある状況であるため、今後の開発状況に応じた交通量を基に、信号機設置の必要性を判断するとの回答を受けている。

信号機の設置は、まず地元の射水警察署が地域からの要望を受け付け、検討した後、県警本部へ案件を上げることとなる。県警本部まで届けられているかについては、市で把握することは難しいが、おそらく射水警察署内での検討であると考えている。

信号機設置の必要性は毎年その時点で判断されるため、本開発地区として毎年継続的に要望を出してほしいとのことだった。市としても引き続き警察と話を進めたり、地域の皆さんと協力したりするが、一度要望を出して終わりではなく、毎年の提出にご理解と協力をお願いしたい。

【発言者 2】

のる一と射水はすでに市の東部エリアで運行しており、アンケート結果では9割の方が満足されているとのことだったが、残りの1割の方から出た課題やその課題を踏まえて大島地区で活かせることがあれば教えていただきたい。

回答【市長】

のる一と射水は、事前にアプリや電話で予約を行い、予約したバス停から乗車し、目的地近くのバス停まで移動する仕組みである。9割の利用者が満足しているが、不満な点として、予約の手間や待ち時間の長さがあがっている。のる一と射水は、システム上、予約後おおむね15分以内に乗車できることになっているが、場合によっては15分を超えることがある。中には、15分の待ち時間自体が長いと感じる利用者もいる。

また、乗り合いバスのため、他の利用者の目的地を経由することがあり、想定より移動に時間がかかるとの意見も寄せられている。ただし、乗り合いバスの性質上、この点については理解していただき。市としては、乗車までの待ち時間短縮に努めており、システムやAIの学習を活用し、さらなる改善を図り、利用者の不満を軽減するよう取り組んでいる。

【発言者 3】

人口減少の課題がある中で、公共交通だけではなく、子育てや地域経済の振興、都市基盤の整備などに関する情報も欲しかった。

回答【市長】

本日は地域公共交通が中心のテーマであったため、人口対策に関する内容が薄かった。

射水市の人口減少は主に自然減によるものである。転入と転出がほぼ拮抗している中、年間の死亡者数と出生数の差が大きな要因となっている。そのため、子どもを安心して産み育てられる環境整備が重要であると考えている。

若い夫婦の希望出生数と実際の出生数には差があり、以前は1.8だったが、直近では1.6まで低下した。経済的余裕や生活環境により育てられる子どもの人数が制限されていると思われる。こうした状況を受け、本年4月から第三子に加え、第二子の保育園・幼稚園の完全無償化を実施するとともに、不妊治療支援の助成額拡充を行った。また、本年4月からは「こども家庭部」を設置し、子育て支援への体制強化を図っている。「安心して子育てできる射水市」の実現を目指して力を入れていきたい。

雇用の創出に関し、地域企業における人手不足への対策として、在宅勤務や短時間勤務を希望する市民と企業を繋ぐ仕組みの準備を進めている。多様な働き方ができる環境を整えながら、市民と企業のニーズに応えていきたい。また、企業誘致も進めていきたい。

多様性と寛容性のある都市環境の充実について、市では、昨年の能登半島地震で多くの被害を受けた。1日も早い復旧・復興に向けて取り組んでいるところではあるが、これを教訓とした災害対応力の強化が欠かせない。検証結果を基に、市民の安全を守る環境整備の充実に取り組んでいきたい。

また、避けることができない人口減少を緩やかにしていきたい。人口が減少すると、その分地域の経済や活力が失われる可能性がある。2 地域居住やイベントへの参加など、観光客誘致や関係人口の獲得により、活力維持を図りたい。関係人口の拡充には仕掛けが必要であるが、熱意もって取り組んでいきたい。

【発言者 1】

本日説明があった乗り合いバスなどの交通は、20年前に高山市でも実施されていた。躊躇せず、市長が取り組みたいと思う施策を前向きに進めてほしい。

回答【市長】

高山市の具体的な取組については詳細を把握していないが、各地ではライドシェアが行われている。ライドシェアは地域住民が要請を受け、自身の車を利用して移動を支援する仕組みで、国も支援を始めたところである。

今回、射水市が導入を目指している AI オンデマンドバスは、住民による協力ではなく、交通事業者であるバス事業者やタクシー事業者と連携して運営している。新しい仕組みとしては、人工知能やデジタル技術を活用している点である。市民にとって利便性の高い交通サービスを提供するとともに、経費削減や環境への配慮にも重点を置いており、公共交通の新たな取組として進めているところである。